

成就感・達成感を味わい、主体的に

運動に取り組む子どもの育成をめざして

全校生徒数	650名(男子334名・女子316名)		
全クラス数	26	教職員数	45
運動部活動数		運動部活動参加率	

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

以前から本校では、登校後に運動委員会を中心に、児童が朝のかけ足運動や、一校一運動の長縄跳びに取り組んでいる。しかし、参加する児童とそうでない児童に差が見られる。また、休み時間に校庭に出て遊ぶ児童と校内で過ごす児童に分かれ運動への取組の二極化が課題である。

2 取組の目的

- ① 一校一運動の『なわ跳び運動』を通して、一人でも多くの児童が運動好きになるようにする。
- ② 体育授業の「感覚づくり」を通して、動きの素地をつくり、運動の生活化を図る。
- ③ 校舎内にオリンピック選手の記録を掲示することで、児童の運動への意欲・関心を喚起する。

取組の内容

児童が、体育の授業に主体的に取り組んだり、休み時間等に意欲的に運動や様々な遊びを行ったりする姿を目指す。

1 一校一運動の啓発

本校の一校一運動は、「なわ跳び」である。全体計画を作成し、体育指導部が中心となって進めている。朝の活動『朝日っ子タイム(8:30~8:45)』では、朝日体育として、学期1回ずつ「学級対抗長縄大会(3分間8の字跳び)」を実施している。学年ごとに優勝クラスを決めることもあり、児童の意欲はたいへん高くなってきている。

さらには、休み時間に学級単位で体育係を中心に、主体的に練習計画を立てて取り組むようになってきている。また、教科体育や家庭における運動として「なわ跳びがんばりカード」等を活用して取り組んでいる。

2 テーマ研修を生かした体育授業の活用

児童の意欲を高める体育授業を実施するために、教師側の指導技術・意欲の向上を図ることを目的とした指導力向上研修会を夏季休業中に実施した。内容は児童が成就感・達成感を味わえるよう、主運動につながる『感覚づくり』の設定の仕方や、児童の運動技術向上につながるアドバイスの仕方等が中心であった。地域人材の長田氏に指導を仰ぎ、我々教師も実際に運動をしながら、研修を深めることができた。

実際に体育の授業で、感覚づくりを設定することで、

短い時間内に運動量を確保できたり、技術力のある児童を中心とした『教え合い活動』を展開させたりすることができるようになってきた。さらに授業中にできなかった技を休み時間に挑戦する児童の姿が見られるようになってきている。

3 校内環境整備の工夫

子どもたちの運動への興味・関心を喚起するために、校舎内(5、6年教室付近)や体育館の設営を工夫した。8月にリオデジャネイロオリンピックが開催され、世界レベルの陸上選手の活躍を目にする機会があったことから、体育学習と関連した競技についての世界記録やオリンピック記録を掲示した。さらに、身近な奄美市の陸上記録会における大会記録も一緒に比較できるように工夫した。興味深げに見入っている子どもの姿も多く見られるようになった。

●工夫したこと

児童の自発的な運動や遊びへの意欲を高めるために、担任も校庭へ出て、一緒に体を動かした。

また、『みんなで遊ぶ日』等の設定をすることで、係を中心とした児童企画・運営のシステムへつなげる学級も増えてきている。

取組の成果

- ① これまで運動が苦手であった児童が、休み時間に自ら練習に没頭する場面が見られるようになってきた。また、毎日同じ遊びや運動ではなく、違う種類の運動に汗を流す児童も増えてきている。
- ② 児童に対して「①運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツが好きですか」「②運動やスポーツは得意であるか」という意識調査を今年度5月と1月に実施した。その結果、調査①で「好き・やや好き」と回答した児童が94%から96%に意識が変容した。また、調査②では、「得意・やや得意」と回答した児童が78%から88%に意識が変容した。

今後の課題

- ① 理論班によって「朝日運動カレンダー」を作成中である。今後、家庭とも連携して配付・活用・結果集約等の作業を進めていくことになる。
- ② 学校(運動)行事等が少ない時期や寒い時期に、校庭で体を動かす取組を増やすことが必要となってくる。